

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
2006年度第2回図書館サービス・システム委員会議事録

日 時：2006年6月8日（木）13時00分～18時00分

場 所：岐阜聖徳学園大学羽島キャンパス

出席者：鈴木卓美（金城学院大学）、長坂功（愛知大学）、塚本ひとみ（愛知学院大学）、
丹羽直美（愛知学泉大学）、長澤千恵（岐阜聖徳学園大学）、坂本尚泰（皇學館大
学）、柘植幸子（椋山女学園大学）、春日井正人（中京大学）、蓑島智子（中部大学）、
中川大信（豊橋創造大学）、守田正江（名古屋外国語大学・名古屋学芸大学）、
尾崎友子（名古屋女子大学）、石田信（南山大学）、小川真智子（愛知工業大学）
（敬称略、計14名）

記 録：小川真智子（愛知工業大学）

【協議事項】

1) システム・ネットワーク化アンケートについて

石田委員より修正箇所の説明がされ、アンケート項目が確定された。

また、下記の通り今後のスケジュールが確認された。

- ・ 6月中旬までにアンケートページを作成する。6月下旬に委員が回答を入力し、動作確認を行う。
- ・ 7月初旬に各大学へ依頼、回答期限を7月末までとする。その後集計を行う。
- ・ 9月の委員会で報告内容を確認し、10月の実務担当者研修会にて発表する。

2) 2006年度実務担当者研修会について

上記について、蓑島委員より実施要領（案）に基づき説明がされた。テーマについて協議されたが、最終決定には至らず、候補案は意見を反映した上で決定される。今回の確認事項の詳細は以下のとおりである。

- ・ 講演者の井上氏には原稿の提出を依頼する。（館灯掲載時に使用）
- ・ 参加対象の「実務担当者」には委託・囑託職員等を含む。実施要領に記載し、ひろく参加者を募る。
- ・ 実施要領には二日分の参加費のみ記載する。ただし、一日のみの参加希望が出た場合に対応するため、一日分の参加費も設定する必要がある。
- ・ 各委員は6月末までに一つ以上の事例報告案を報告し、その中より2件を決定する。現在の候補は次の3件である。
 1. 利用者推進プロジェクトについて 名古屋女子大学 尾崎氏
 2. 学術機関リポジトリについて 名古屋大学
 3. パスファインダーについて 愛知淑徳大学
- ・ 分科会はテクニカルサービス系1つ、閲覧サービス系（情報リテラシー教育支援と電子資料の提供の2つ）とする。

- ・業務分担は次の通りである。なお、分科会の記録は全体会報告用であり、館灯用の分科会記録は特に作成せず、全体会記録をもってそれに代えるということが確認された。

【受付】 石田・柘植
【会計】 長澤
【司会進行】 鈴木
【写真】 塚本
【議事録】 柘植
【情報交換会（懇親会）司会進行】 春日井
【分科会】
A. テクニカル系 司会： 丹羽
B-1. 情報リテラシー教育支援 司会： 尾崎
（ 尾崎委員が事例発表を行う際は菫島委員が分科会の司会を行う）
B-2. 電子資料の提供 司会： 長坂
【システム・ネットワーク化アンケート報告】 中川・小川
【アンケート作成】 守田
【総括】 坂本

- ・臨時委員会を下記の日程で開催し、実施要領や分担、各委員の参加分科会等の最終確認を行う。

日時 7月20日（木）14:00～

場所 中部大学附属三浦記念図書館

- ・参加者には質問事項等を記載した出欠表を提出してもらおう。集計後、各分科会の司会担当委員へ報告される。

3) 東海地区協議会ホームページについて

丹羽委員より、ホームページ担当者会議の報告がされた。詳細は、ホームページ担当者会議議事録に掲載される。

- ・ページごとに、各委員の担当が決められた。
- ・迷惑メール対策のため、当委員会のメールアドレスが画像表示された。また、送信の際のアドレスは手入力とした。
- ・レファレンス事例集およびリンクデータベースのページのアクセス数が多いので現状のままにしておく。
- ・トップページのアクセス数のカウント方法について確認をとり、記載する。（石田委員）

4) ILL 料金低額提供について

業務の煩雑さと正確性、低額料金への変更による収支バランスについて懸念される一方、統一料金制、加盟館リストの随時更新、ILLでの依頼の際に加盟館であることを記載するなどの案が出された。また、貸借期間の統一について提案があった。

サービス対象外の資料や、料金改定の際の手続きなど各館ごとの事情もあり、実施にはさらなる調整が必要となることが確認された。

5) 2007年度見学会について

京都方面の大学図書館数館について提案があったが決定には至らず、継続協議事項となる。

6) 横断検索について

委員長より横断検索システム構築について提案がなされた。実現には、各メーカーSEとの連携が必要であるため、委員から各システムメーカーのSEに連絡をとることとなった。

7) OVID「e-リソース・マネージメント・ソリューション」について

OVID・丸善担当者より、統合検索ツール「Ovid Search Solver」のデモンストレーションが行われた。

以上